

年間第二十三主日

マルコ 7・31-37

2018.9.9.

高円寺教会 9:30 ミサ

クラレチアン宣教会 梅崎 うめざき たかいち 隆一神父

イエスに出会う人は生き方が変えられていきます。今日はイエスの前に耳が聞こえず口が利けない人が連れてこられました。イエスに出会うことで、聞こえなかった耳が聞こえるようになり、利けなかった口が使えるようになりました。

わたしたちは、耳は聞こえますし話すこともできますが、本当に大切なことを聴き取り、大切なことを話しているのでしょうか。幸せの中にいた人が不幸になる様子を聞いて喜んだり、話す言葉が人を不幸にしたりしてはいないでしょうか。もしもそうなら、私たちもイエスに癒していただく必要があります。人は口や耳を神に癒やされることで、心を癒やして頂くことができます。心が豊かな人は、人の不幸を喜びませんし、人を不幸にしようなどとも思いません。

イエスのしるしを見た多くの方は「常識では考えられないことが起こった」と、多くの人に言いふらすのですが、イエスは口止めをされます。耳が聞こえず目が見えない人は癒されましたが、それを目撃した人たちの口と心はまだ開かれていなかった。そのような口でイエスのことを語れば語るほど、イエスの像がどんどんゆがんでいくということになります。

目を転じて、現代社会を眺めてみると、雑誌、テレビ、新聞、インターネットなどで耳と口を使ったたくさんの情報が溢れていて、たくさんの人たちが口と耳を使っています。そして、その像はいつも正確に示されているとも限りません。そしてその中の一体どこに神のことばがあって、どこが違うことなのかを見抜くことができるほどわたしたちの目も開かれていません。2千年前に比べて技術はとても発達し、今までは分からなかった遠くの世界にあったことがもう自分の近くにあったことのように知ることができるような、そんな時代になったけれども、人間の抱えている耳と口の問題はまだ解決されていません。ラインやメールを使うことで、仲の良かった人同士の仲が悪くなったり、裏サイトを使って特定の人をいじめたり、ツイッターを使って世界を混乱させたり、あるいはインターネットのサイトを通して戦闘員を募ったりすることもできる。

間違っていることでも多くの人が支持していることが正しいと思ひ込むけれども、実際にはそうではないことも多い。

イエスについて多くの人が言い広めたけれども、イエスが口止めをされるぐらいにその像がゆがんでいく。イエスの像だけではなくて、真実そのものもずいぶん歪んでいる。その中においてわたしたちは自分たちの口と耳を通して神とこの世界について正しく語ったり聞いたりすることができるのかが問われています。

わたしたち現代人もまた口と耳の癒しを必要としています。口と耳は人との関わりのために大切なものですけれども、口と耳を使って人の関わりを敵意に変えたり、命を奪い合うこともできます。世界を変えるためには、技術を発展させることではなく、一人ひとりの人間の口と耳が癒され、心を変えられなければなりません。すべての人間は、復活したイエスに出会い、口と耳を癒されます。そして、神の国は一人ひとりの人間の救いによって完成することを今日も教えてください。